

Regional Disparity of Reperfusion Therapy for Acute Ischemic Stroke in Japan: A Retrospective Analysis of Nationwide Claims Data from 2010 to 2015

前田, 恵

<https://hdl.handle.net/2324/4784470>

出版情報 : 九州大学, 2021, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : (c) 2021 The Authors. Published on behalf of the American Heart Association, Inc., by Wiley. This is an open access article under the terms of the Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs License.

(別紙様式2)

氏名	前田 恵
論文名	Regional Disparity of Reperfusion Therapy for Acute Ischemic Stroke in Japan: A Retrospective Analysis of Nationwide Claims Data from 2010 to 2015
論文調査委員	主査 九州大学 教授 馬場園 明 副査 九州大学 教授 吉本 幸司 副査 九州大学 教授 磯部 紀子

論文審査の結果の要旨

申請者らは、急性期脳梗塞患者に対する遺伝子組換え組織プラスミノゲンアクチノベーター静注療法（rt-PA静注）および経皮的脳血栓回収療法（EVT）による再灌流療法の実施状況と治療実施後30日院内死亡における地域格差および格差に関連する地域要因を明らかにする研究を行った。レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を使用して、2010年4月から2016年3月までの間に日本全国で再灌流療法を受けた急性期脳梗塞患者69,948人を抽出し、47都道府県別に検討を行った。研究対象期間におけるジニ係数の推移をみると、rt-PA静注単独療法とrt-PA静注および／またはEVTの実施数については都道府県間で低い不均等（0.11～0.15）であった。EVTについては2010年には都道府県間で極端な不均等（0.49）が見られたものの、2015年には中程度の不均等（0.25）となっていた。地域要因については、脳卒中センター数や血管内治療専門医の密度、治療実施医療機関に対する集中度は、再灌流療法実施数と正の関連がみられたが、地方在住者の割合や救急車搬送遅延率は、再灌流療法実施数と負の関係にあった。EVT後の30日死亡については、2010年には都道府県間で極端な不均等（0.86）がみられたが、2015年には中程度の不均等（0.29）となった。rt-PA静注単独療法とrt-PA静注および／またはEVTは、いずれも都道府県間で中程度の不均等（0.17～0.23）であった。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。